

(お知らせ)

奄美群島国立公園海域公園地区における油状の物の漂着の影響把握に関する 緊急調査の結果（速報）

平成 30 年 2 月 16 日（金）

環境省九州地方環境事務所

那覇自然環境事務所

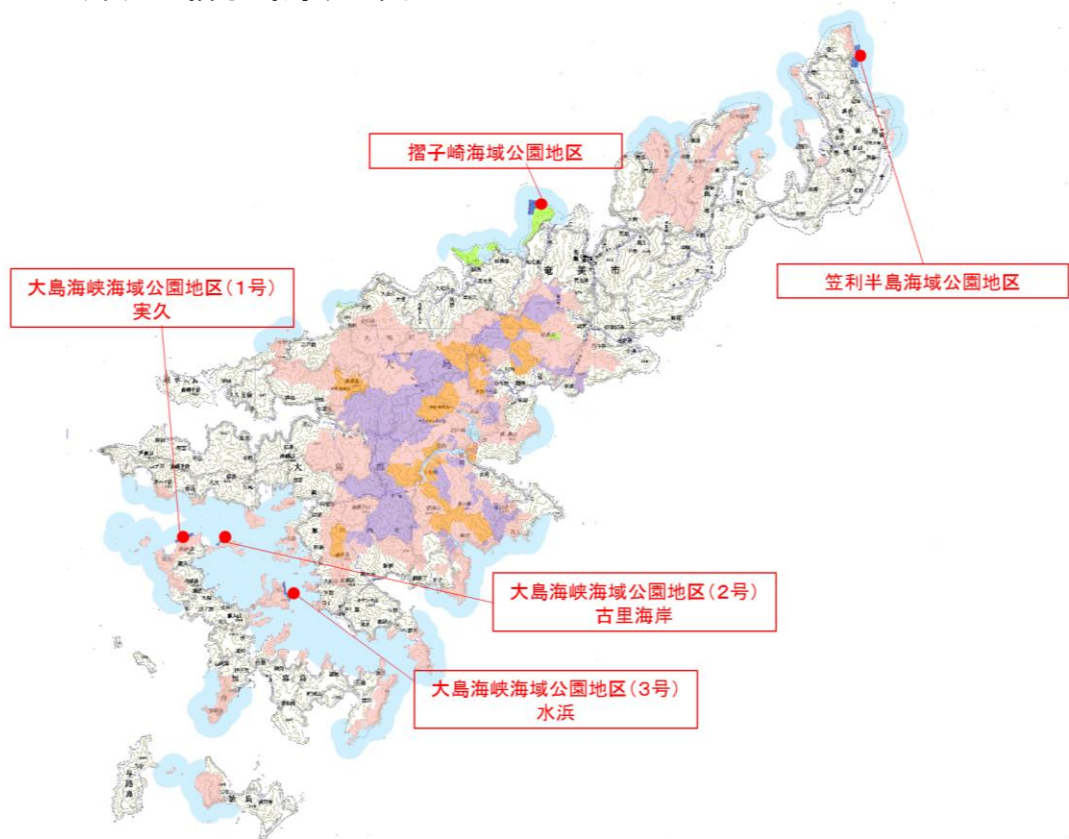
所長 東岡 礼治

国立公園企画官 速水 香奈

那覇自然環境事務所では、現在発生している奄美大島への油状の物の漂着による沿岸域の生態系への影響把握のため、奄美群島国立公園の5つの海域公園地区において、目視による緊急調査を行いました。その結果、水浜を除く4地区の海岸において、油状の物の漂着を確認したものの、海面における浮遊はありませんでした。イシサンゴ類等への付着も確認されず、現時点ではイシサンゴ類、海藻海草類、貝類、ウニ・ヒトデ類（棘皮動物）の生息・生育には特に異変がないことを確認しました。

1. 調査日及び調査場所

- ① 2月12日（月） 笠利半島海域公園地区
- ② 2月14日（水） 大島海峡海域公園（1～3号地区）
- ③ 2月15日（木） 摺子崎海域公園地区



2. 調査結果の概要

① 笠利半島海域公園地区

- ・調査地点：用集落北小浜礁原、用集落前礁池



- ・調査方法：干潮時に海岸から礁池・礁原に入り目視で油状の物の付着の状況を把握
- ・調査結果：

集落北小浜の砂浜において、局所的に油状の物の漂着が見られた。両調査地点における海面や波打ち際での油状の物の浮遊はなく、北小浜礁原上において、2つのオイルボールが見つかった他は、サンゴ岩や海底、水中生物への付着は見られなかった。イシサンゴ類や棘皮動物、貝類、海藻・海草類等の生息・生育にも、特に異変がないことを確認した。

<用集落北小浜礁原（左：用集落北小浜、右：礁原の塊状サザナミサンゴ科群集）>



<用集落前礁池（左：礁池の海草ウミヒルモ、右：サンゴ群集）>



② 摺子崎海域公園地区

- ・調査地点：大浜海浜公園小浜から東端の浜および地先の礁原、礁池



- ・調査方法：干潮時に海岸から礁池・礁原に入り目視で油状の物の付着の状況を把握
- ・調査結果：

調査地点の海岸線一帯に油状の物の漂着が見られた。両調査地点における海面や波打ち際での油状の物の浮遊はなく、礁池において油が付着した石が見つかった他は、サンゴ岩や海底、水中生物への付着は見られなかった。イシサンゴ類や棘皮動物、貝類、海藻・海草類等の生息・生育にも、特に異変がないことを確認した。

< 摺子崎礁原 (左：礁原のミドリイシ属群体、右：塊状ハマサンゴ) >



< 摺子崎礁池 (左：礁池のミドリイシ属群体、右：海藻カギケノリ) >



③ 大島海峡海域公園地区

- ・調査地点：実久（1号）、古里海岸（2号）、水浜（3号）のサンゴ礁及び砂浜



- ・調査方法：

船舶を使用し、干潮時に海面から目視で礁池・礁原の油状の物の付着の状況を把握

- ・調査結果：

外洋に面する実久（1号）の海岸部一帯で油状の物の漂着が見られ、古里海岸（2号）の中央部にも少量の漂着が見られた。各調査地点とも、海面や波打ち際での油状の物の浮遊はなく、サンゴ岩や海底、水中生物への付着は見られなかった。イシサンゴ類や棘皮動物、貝類、海藻・海草類等の生息・生育にも、特に異変がないことを確認した。

< 実久（1号）（左：実久に漂着した油状の物、右：礁池のサンゴ群集） >



< 古里海岸（2号）（左：古里海岸に漂着した油状の物、右：礁原のサンゴ群集） >



<水浜（3号）（左：水浜・油状の物の漂着なし、右：ユビエダサンゴ群落）>



3. 今後の対応について

引き続き、巡視等により目視調査を継続し、現状把握に努める。また、今後、沿岸域の生態系への影響を把握するため、サンゴ礁等を対象とした水中からの詳細な調査を実施する予定。

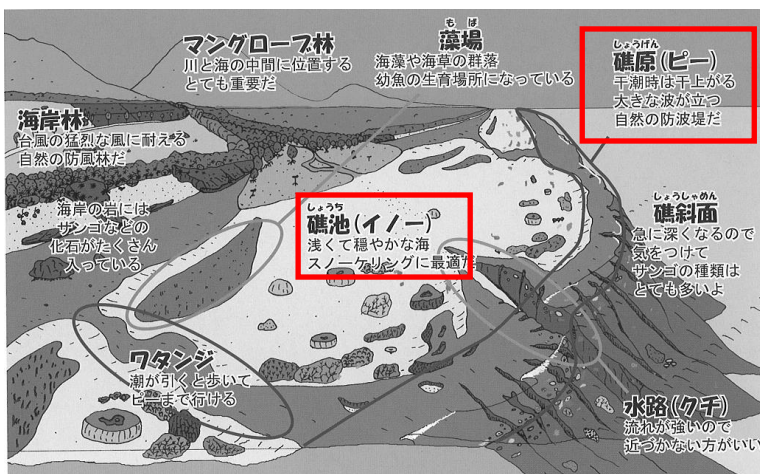
お問い合わせ先：

環境省那覇自然環境事務所国立公園課

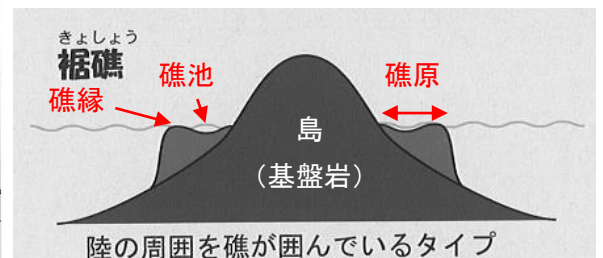
担当：速水、黛

TEL：098-836-6400 FAX：098-836-6401

【参考】礁原及び礁池について



パンフレット「八重山のサンゴ礁」より
(那覇自然環境事務所)



- ・ **礁原**：
サンゴ礁の上面の平坦な部分で、干潮時は干上がる。大きな波がたつ、自然の防波堤
- ・ **礁池**：
裾礁の礁原に発達し、浅く静穏な水域。繊細な群体形のサンゴが生育し、海草帯などが発達する。